中国特許の現状評価：単なる「量産」から「質的上位層の急拡大」へ

中国の特許出願が「補助金による大量生産」から「国際競争力を持つ上位層の形成」へと構造転換している実態を可視化。

量的膨張から「国際化・活用」への構造転換



2025年のPCT国際出願数は73,718件で世界首位を維持

EPO（欧州特許庁）でも日本を抜き第3位となり、海外権利化が加速。



出願補助金の廃止により、「数量偏重」から「質・活用」へ政策転換





2021年に出願段階の補助金が全廃され、未活用特許の産業化に注力。

2025年のPCT国際出願数

EPO（欧州特許庁）でも日本を抜き第3位となり、海外権利化が加速。



EPO（欧州特許庁）でも日本を抜き第3位となり、海外権利化が加速。

企業の発明特許産業化率は54.0%へ上昇

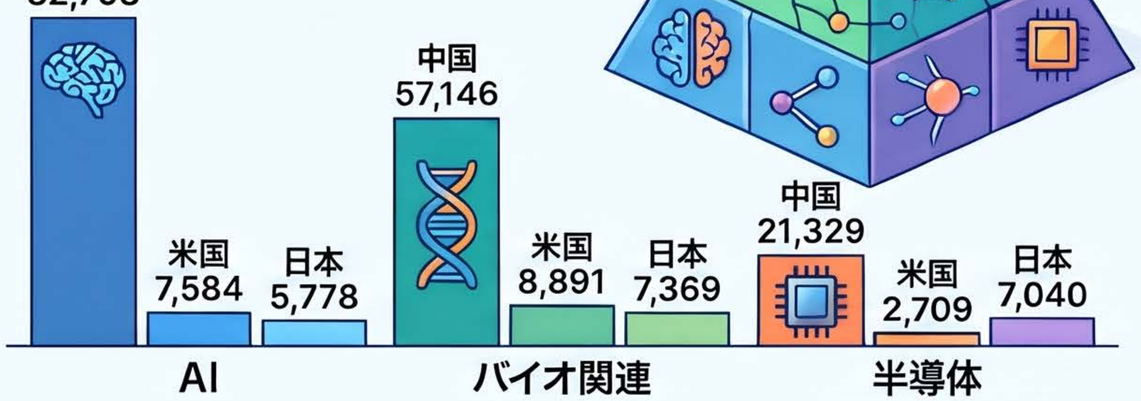


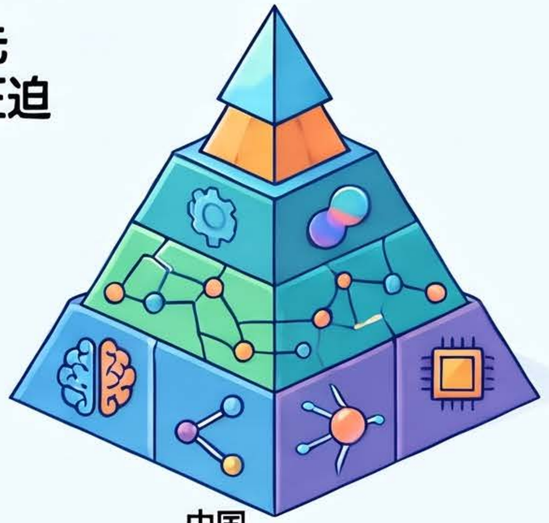
2021年の46.8%から一貫して上昇し、商業化への貢献が進展。

重点分野における「質的上位層」の台頭

AI・半導体・バイオの国際優先ファミリー数で世界シェアを圧迫

2024年のAI国際優先ファミリー数は82,708件で他国を大きく凌駕。





平均の質ではなく「上位5〜10%の権利群」が世界的脅威に

最上位の影響力は米国が強いが、5G SEPや電池等で高い交渉力を保持。



Gemini Notebook